

第7章 勝山市の基盤となっている10地区の地域力向上プロジェクト

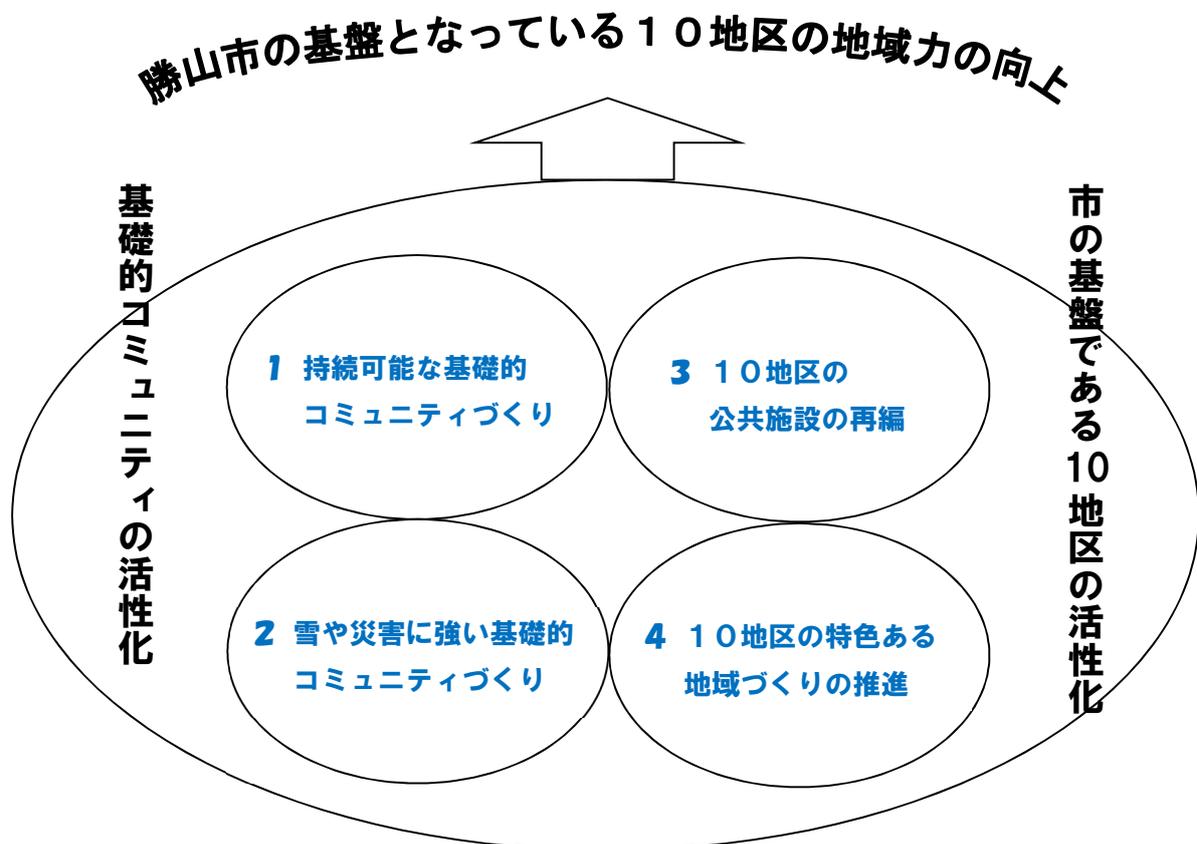
人口減少や日常生活圏の拡大など社会情勢の変化に対応し、自立的で持続可能なまちの実現を目指すため、基礎的コミュニティ（行政区）とその集合体である10地区の活性化と、その取組みに不可欠な公共施設の再編を実情にあわせ十分検討したうえで推進していきます。

「勝山市の基盤となっている各地区の地域力の向上」に向けて、次の4つの政策に取り組んでまいります。

1. 持続可能な基礎的コミュニティづくり
2. 雪や災害に強い基礎的コミュニティづくり
3. 10地区の公共施設の再編
4. 10地区の特色ある地域づくりの推進

基礎的コミュニティの活性化に向け、地域に伝わる伝統文化の継承や、雪などあらゆる災害に強い体制づくりに向けた支援をしていきます。

勝山市を構成する10地区の活性化に向けては、各地区にまつわる歴史的背景や、これまで公民館活動を中心として培ってきた自主性を尊重しつつ、各地区の公共施設の再編について検討していくとともに、地域が主体的に取り組む特色ある地域づくりを支援していきます。



1 持続可能な基礎的コミュニティづくり

■基本方針

市内のほとんどの地区において、人口減少による人口構成の変化が進行した結果、長年にわたり基礎的コミュニティが担ってきた共助機能が弱体化しています。

失われつつある共助機能を維持・強化し、地域力を向上させるため、勝山地区を中心とする市街地と周辺の中山間地域が取り組むまちづくり活動を、それぞれの特質や規模に応じて支援するとともに、相互の連携を促進していきます。

この取組みを通じて、基礎的コミュニティの共助機能が十分発揮できる体制を整え、伝統文化の継承や集会場等の地区共有施設の維持など幅広い分野においても支援を行っていきます。

さらに、若者や女性の地域活動等における意思決定過程への参画も促進していきます。

■重点項目

- ・ 中心市街地と中山間地域それぞれの特質や規模に応じた柔軟な施策の推進
- ・ 地域に伝わる伝統文化の継承に向けた支援
- ・ 地域が主体的に行う共同作業や地区共有施設の維持に対する支援
- ・ 地域の意思決定過程に若者や女性の意見を反映するための支援

2 雪や災害に強いコミュニティづくり

■基本方針

勝山市では、冬期における安心・安全の確保に向け、これまでも様々な雪対策事業に取り組んできました。平成27年に実施した「勝山市地方創生総合戦略」策定に向けた全市民アンケートの結果からも多くの市民が雪対策の充実を望んでいるため、市では引き続き、克雪に向けた迅速で的確な道路除排雪体制を一層充実していきます。

一方、少子高齢化により、これまで各家庭により行われてきた屋根雪や敷地内の除雪作業が難しくなっています。さらに基礎的コミュニティが担ってきた共助による除雪作業についても困難になりつつある状況を踏まえ、高齢者世帯等や地域の自主的な除雪活動に対する支援を行っていきます。

あわせて、雪を面倒なものとして捉えるのではなく、雪のある環境を楽しむ意識の醸成や雪を活用する親雪・利雪に向けた取組みも進めていきます。

さらに、こうした地域ぐるみの雪対策や、日常における高齢者の見守り体制等を進めることを通じて地域力の向上を図り、あらゆる災害に即応できる地域防災力全般の強化を目指します。

■重点項目

<「勝山市総合克雪・利雪・親雪計画」の推進>

- ・ 市内全域の道路除雪体制を核とした、公助・共助・自助の連携による総合的な除雪計画の推進

基本計画【第7章】

- ・農産物等の雪室貯蔵による高付加価値化と地域ブランド化
- ・雪を利用したイベントの検討

<災害に強い地域づくり>

- ・自主的な地域防災組織の設立、支援
- ・災害時における市民への情報伝達の徹底
- ・10地区の中核となる地域防災拠点の整備
- ・冬期における生活支援（買い物、移動等）

<公助による道路除排雪体制の確立>

- ・国、県、民間事業者との連携による効率的な道路除雪
- ・冬期間における歩行者等の安全確保
- ・狭い道路の除排雪による生活道路の確保
- ・通勤通学道路の除排雪
- ・流雪溝の整備と水量の確保

<共助による除雪に対する支援>

- ・地域ぐるみの高齢者見守りや除雪の推進
- ・基礎的コミュニティ等に対する除雪機械の助成

<自助による除雪に対する支援>

- ・屋根融雪設備設置への支援
- ・高齢者世帯等の除雪に対する支援

3 10地区の公共施設の再編

■基本方針

基礎的コミュニティとその集合体である10地区におけるまちづくり活動等の基盤となっている公共施設について、各地区との合意形成を前提に、少子高齢化や社会経済環境の変化に応じた再編を進めていきます。

こうした公共施設の適正な配置を通じ、人口が減少する中においても自立的で持続可能なまちの実現を目指します。

■重点項目

<新たな地域中核施設>

- ・市全体のモデル事業として、平成27年度に北谷地区において整備した「北谷町コミュニティセンター」の手法を活かし、北谷地区以外の9地区についても、新たな中核施設として複合的な機能を備える（仮称）コミュニティセンターの整備を検討します。

<小学校>

- ・小学校の再編については、地域の意思を十分尊重することを基本にするとともに、中学校の再編方針も踏まえ、適切な学校規模のあり方を検討し、対応します。

<中学校>

- ・中学校の再編については、これまでの議論と今後の生徒数の見通し等を踏まえ、平成31年度に方針を決定し、対応していきます。

<体育施設>

- ・勝山市体育館「ジオアリーナ」の完成を踏まえ、既存の体育施設の再配置、再整備を進めます。

<幼稚園、保育園>

- ・幼稚園については、園児数の減少を踏まえた今後のあり方を検討します。また、幼稚園と保育園を一元化した認定こども園への移行を支援するなど、より利用しやすい体制づくりを目指します。

4 10地区の特色ある地域づくりの推進

■基本方針

市長と各地区、各種団体等との語る会や全市民を対象としたアンケート等でいただいた地域の声をもとに、それぞれの現状と課題を踏まえ、各地区が新しい時代に対応した地域づくりの指針とするものとして、10地区の「地域づくりの視点」を設定しました。

特に地域住民が主体的に取り組む課題については、わがまち助成事業など、その主体的な活動に対し行政がバックアップする仕組みを通じて、各地区の地域力の向上を図ります。

■重点項目

<各地区（10地区）の主体的な地域づくり事業>

- ・「地域づくりの視点」に沿って地区全体が主体的に取り組む事業への支援

■地区（10地区）ごとの「地域づくりの視点」

<勝山地区>

城下町の面影を残す歴史的な町並みの風情と伝統文化が受け継がれている中心市街地を有する勝山地区は、本町や大清水公園等の街路整備により、まちなか再生、活性化に向けた基盤整備を行いました。今後は、まちなか誘客の拠点施設として平成21年にオープンした、はたや記念館ゆめおーれ勝山や平成29年にリニューアルオープンする旧料亭花月楼周辺のさらなる整備・充実を図ります。

また、商業集積地区として形成・発展してきたまちのエッセンスを活かしながら、周辺の国登録文化財や近代化産業遺産を連携させた「まちなか巡りツアー」の構築や、まちなかでの新たなイベントの開催等により、市民生活と観光の両面において市内外から人が集まるにぎわい空間の創出を目指します。

- ・はたや記念館ゆめおーれ勝山や旧料亭花月楼を活用したまちなか誘客の推進とにぎわい空間の創出
- ・商業集積地区として形成・発展してきたまちのエッセンスと周辺の文化財等を活かしたまちなか巡りツアーやイベントの開催

- ・勝山城下町の面影を残す歴史的な町並みの風情と勝山左義長をはじめとする伝統文化の保存・継承
- ・福井銀行跡地の利用の検討

<猪野瀬地区>

猪野瀬地区は、街路や公園の整備、さらには近隣地区への大型量販店進出等が進み、市内でも数少ない人口増加地区となっていることから、引き続き良質な居住環境の維持とレベルアップを図ります。

また、優良企業が立地する工業団地を有しており、さらなる企業立地の促進に努めます。あわせて、勝山水菜やメロン、サトイモなど勝山市を代表する特産品の産地であることを活かして、特産品の地域ブランド化や農業の6次化を進め、越前大仏門前町や勝山城博物館、勝山ニューホテル等とも連携しながら農商観連携による地域活性化を図ります。

- ・生活利便性の高い居住環境の維持、充実
- ・越前大仏門前町や勝山城博物館、勝山ニューホテル等の観光施設、特産品を活用した農商観連携による地域づくり
- ・農業の6次化による勝山市を代表する特産品（勝山水菜、メロン、サトイモ等）の地域ブランド化と販路開拓

<平泉寺地区>

豊かな自然景観と田園風景に恵まれ、国史跡白山平泉寺旧境内を有する平泉寺地区では、史跡公園化や見学路整備、誘客施設や多目的広場の整備など歴史的景観に配慮した整備を進めてきました。また、白山平泉寺歴史探遊館まほろばのオープンにより総合的な説明・案内ができるようになり、地域の方々による観光誘客への独自の取組みも行われています。

こうしたことから国史跡白山平泉寺旧境内の発掘調査・研究に継続して取り組む一方、法恩寺山、経ヶ岳一帯の豊かで多様な地質・地形遺産等の整備・活用と、これらの遺産の保存・保全、住民の居住環境との調和に十分配慮しながら、平泉寺地区の魅力を県内外へ情報発信し、訪れる人々にその魅力が伝わる環境づくりを進めます。

- ・豊かな自然景観、田園風景の保全・活用
- ・国史跡白山平泉寺旧境内に代表される歴史遺産やジオパークに関連する地質・地形遺産等の整備・活用による地域活性化と居住環境との調和
- ・地域住民による誘客の取組みと市が行う観光事業との強力な連携
- ・特色ある農業（酪農、有機農法等）の振興

<村岡地区>

村岡地区は、福祉健康センター「すこやか」、JCHO福井勝山総合病院、消防署、警察署など市民の暮らしを支える公共施設等が立地する一方、滝波川、浄土寺川、暮見川の豊かな水辺環境と長尾山、村岡山といった里山環境にも恵まれています。

さらに、「福井県立恐竜博物館」、「かつやま恐竜の森」など全国に誇れるすぐれた観光資源を有し、県内外から毎年多くの観光客が訪れていることから、かつやま恐竜の森一帯の整備を推進するとともに、ホワイトザウルス周辺の整備や、村岡山城跡の調査・研究を進め、周遊・滞在型観光の拠点地区としての振興を図ります。

- ・福祉健康センター「すこやか」、JCHO福井勝山総合病院、消防署、警察署等の公共施設等が立地する生活利便性が高い居住環境を活かした地域づくり
- ・水辺、里山環境の保全・活用
- ・すぐれた観光資源の一層の活用、有機的ネットワーク化による周遊・滞在型観光の拠点地区としての地域づくり

<北谷地区>

豊かな自然遺産と歴史遺産に恵まれた北谷地区では、鯖の熟れ鮓しの商品化や伝統芸能の復活、小原地区の古民家再生、田舎暮らし体験ツアー等の開催による交流人口の増加、恐竜化石発掘地周辺整備、地質遺産をメインとする「恐竜渓谷ふくい勝山ジオパーク」の日本ジオパーク認定、発掘地の国天然記念物指定など、新たな活性化の芽が開きつつあります。

一方で厳しい自然環境や社会経済環境の変化を受け、生活の場としての活力が失われつつあります。

こうした状況を踏まえ、平成27年度に整備した北谷町コミュニティセンターを核として北谷地区の住民や関係者の主体的な取組みを行政が支援しながら、いつまでも安心して暮らせ、次世代を育むことができるコミュニティの再生・活性化に重点的に取り組めます。

この北谷地区の活性化、再生の取組みは「勝山市の基盤となっている各地区の地域力向上プロジェクト」全体のモデル事業として、その成果を平成32年度までに他地区にフィードバックする仕組みづくりを進めます。

- ・北谷から見える白山や加越国境の美しい景観を活かした観光スポット整備の検討
- ・日本一の恐竜化石発掘地周辺の整備・活用
- ・エコミュージアムの取組みから生まれ育った地域遺産の整備・活用による地域活性化
- ・北谷町コミュニティセンターを核とした地域活性化
- ・基礎的コミュニティの活性化、再生～北谷地区全体の活性化、再生の実現
- ・住民が安全・安心に暮らせる生活環境の整備、充実

<野向地区>

野向地区では、大日山（越前甲）の雄大な自然景観と、高尾山をはじめとする里山のふもとに田園風景が広がる豊かな農村集落が形成され、その間を国道416号、県道栃神谷・鳴鹿・森田線の景観に配慮された主要道路が整備されています。

ここでは、エコミュージアムの取組みから発展した「野向のエゴマ」を中心に、農産物の販売・加工等を手がける団体「のむき風の郷」が設立されていることから、この新

基本計画【第7章】

しいコミュニティ組織の活動を、まちづくりと地域経済活性化の担い手として支援していきます。

また、休耕田を利用したコスモス畑、体験農業など、豊かな自然環境を活用した特色ある地域農業が展開されており、こうした農村集落の魅力と、市街地に隣接し、近隣に新たな商業ゾーンを有する地理的好条件の両面を活かして、定住人口の増加を図ります。

- ・国道416号など主要道路の整備促進による地域づくり
- ・「のむき風の郷」の活動を通じた地域活性化
- ・特色ある地域農業の振興・継続
- ・自然環境に恵まれた農村の魅力と市街地に隣接している利便性を活かした定住人口の増加への取組み

<荒土地区>

荒土地区は国道416号など幹線道路から見る白山連峰のパノラマと目の前に広がる田園風景が調和した自然景観が美しく、農業生産基盤の整備による農業の振興、炭やにんにく加工品等の特産品の開発・販売が地域住民によって積極的に進められています。

また、近年では大規模商業施設が集積した新たな商業ゾーンの形成と新たな住宅地整備、公園整備等の基盤整備が進んでいます。さらに勝山インター線の「かつやま恐竜橋」開通により、中部縦貫自動車道から市街地に入る玄関口として交通の要所であり、平成32年には「道の駅」のオープンが予定されています。このため、特産品や農産物の地域ブランド化と販売推進にさらに磨きをかけるとともに、自然景観に配慮した新たな商業集積地としての基盤整備を活かした産業振興、雇用創出等に取り組みます。

- ・道の駅整備に向け、地元特産品の販路や地域ブランドの確立など経済活性化に向けた取組み
- ・福井市、坂井市方面からの幹線道路、勝山インター線整備による市街地、主要観光地への玄関口となる立地環境の活用
- ・新たな商業ゾーンの発展にともなう経済活動活性化と定住人口増加

<北郷地区>

本市の西に位置する北郷地区は、東尋坊や丸岡城等の観光地がある坂井市方面からの玄関口であり、多くの観光客が県道勝山丸岡線を利用しています。

また、九頭竜川や岩屋川等の豊かな水辺環境を有し、さらに国の重要文化財である旧木下家住宅をはじめ畑ヶ塚、岩屋観音、岩屋オートキャンプ場等の観光資源があることから、これらの連携による観光振興、地域活性化を目指します。

- ・県道勝山丸岡線における道路景観の改善
- ・国の重要文化財「旧木下家住宅」を核とする周辺観光資源の連携による観光振興、地域活性化
- ・九頭竜川や岩屋川等の水辺環境の整備、活用

<鹿谷地区>

中部縦貫自動車道勝山インターチェンジと、えちぜん鉄道の各駅がある鹿谷地区は、平成28年の一般県道勝山インター線（かつやま恐竜橋）開通により、勝山インターチェンジから市内へのアクセスが向上しました。さらに平成29年の中部縦貫自動車道永平寺大野道路全線開通や平成32年の荒土地区での「道の駅」完成により、市の玄関口としてさらに重要な地区となります。

その一方で、昔ながらの農村文化が地域の人々によって引き継がれ、今も息づいていることから、都市計画に基づき、周辺の里山や九頭竜川の豊かで美しい自然、住民の居住環境や集落景観に害を及ぼすような乱開発を未然に抑制しながら、高速交通拠点としてのメリットを最大限に活かした地域活性化を目指します。

- ・勝山の玄関口としての勝山インターチェンジ周辺の景観整備
- ・中部縦貫自動車道の高速交通拠点としてのメリットを活かした人の誘致・地域振興
- ・里山、九頭竜川等の自然景観、アユなど水産資源の保全、活用
- ・古くから地域に伝わる農村文化・産業の保護、継承

<遅羽地区>

えちぜん鉄道勝山駅がある遅羽地区は、本市における鉄道による中心市街地への玄関口です。登録有形文化財である駅舎の改修やロータリー広場の整備、駅西公園の整備、「テキ6」の動態保存¹等によって、市民の利便性の向上だけでなく、観光客に対する案内機能や市内主要観光施設への交通アクセスの起点としての機能も高まっています。また、駅構内にカフェが設置されるなど、駅自体の魅力もアップし、集客力も上がっています。

こうしたことから、まちづくりの核となる駅周辺と遅羽町のシンボルである三室山、国内有数の縄文遺跡である三室遺跡、カタクリの群生地であるバンビライン、九頭竜川の水辺環境等を有機的に結び付けて地区全体の活性化を図ります。

また、地域活性化に向けた取組みとして、「縄文料理」の開発・販売など地域住民によるコミュニティビジネス構築への機運が高まっています。

- ・えちぜん鉄道勝山駅の地域交通の結末点としての充実・強化
- ・大正時代の雰囲気を残す国登録文化財えちぜん鉄道の駅舎および周辺施設と、三室山および三室遺跡やバンビラインなど周辺の地域資源との連携による地域づくり
- ・九頭竜川の美しい水辺環境の保全・活用
- ・地域住民によるコミュニティビジネスの構築

¹ ※動態保存

動作可能な状態で保存されていること。